

第8回大阪ミモザカフェ：“地方行政におけるジェンダー／まちづくり”報告と議論

参加者4人で午前11時から1時間ほど開催しました。今回は参加者から、“地方行政におけるジェンダー／まちづくり”をテーマに報告があり、それをもとに話し合いました。

報告は、兵庫県の斉藤知事問題とその周辺の問題について、なぜ彼は堂々としているのか、なぜ彼の根強い支持者がいるのかに関心を持ち、ネット報道やnoteやYouTube等から信頼できるソースをもとに尼崎市と大阪市の事例を調べてみたとのことでした。尼崎市は、ここ20年ほど無所属の市長（2人は女性）ですが、大阪市は2011年以降は“維新”の男性市長です。尼崎市では「かなみ新地」という違法売春街を市が更地にして民間に売却し「子育て世代の定住」を目指す街づくりが進む一方、大阪市は「飛田新地」などの売春宿が温存されています。橋下徹氏は飛田の「料理組合」の顧問弁護士であったとのこと。“自由恋愛”を盾に手が出せないとされているのだとか（ご関心のある方は報告資料を共有しますのでご連絡ください）。また、政党名と女性不祥事やハラスメントでの検索ヒット件数、選択的夫婦別姓制度に関する議員アンケートなどからも傾向が見えてきます。日本は政治への女性の参画が少ないことがよく知られていますが、地方行政の違いという切り口から、ジェンダーにかかわる視点が投票や選択の指標になることが示されました。

報告を受けての話し合いは多岐にわたりました。彼らの支持基盤がいったい何なのか、公益通報の扱いや警察の対応の問題など、私たちが知るべき情報はたくさんありますが、探さずらくもあります。報告内容をインターネット検索すると、女性を貶める画像がたくさん出て来て気が滅入ったとのこと、こうした視覚的暴力は憂慮すべき事態です。そのことにかかわって、性教育がタブー視されている問題（学習指導要領のはじめ規定や教科書のありかた）、家庭での性教育の本やツールの紹介もありました。京都では舞妓は文化の担い手であり観光の目玉で“かわいい”の象徴でもありますが、当事者による性暴力の告発も出てきており、大阪とはまた状況は異なり複雑です。京都で会合があるときのニュースレターには舞妓のイラストがあしらわれることも多く、舞妓のイラストはやめようと提案されているそうです。こうした場所は寺社の近くでお参りの帰りの遊び場として発展したり廃れたりしてきた歴史もあるのだとか。こうした歴史文化をジェンダー視点で読み直すのもおもしろいかもしれません。

〔性教育のツール・本の紹介〕

セイシル「デートDVチェッカー」

<https://with.seicil.com/blogs/news/2023-6-2>

フクチマミ『おうち性教育ははじめます 一番やさしい！防犯・SEX・命の伝え方』2020、『おうち性教育ははじめます 思春期と家族編』2022, KADOKAWA

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321911000487/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/322204001072/>